

第73回

# 会社訪問

## レオ・ラボ株式会社



会社プロフィール

代表者：代表取締役社長 藤巻 稔

所在地：〒111-0052 東京都台東区柳橋2-21-9 プレリービル3F

TEL：03-3865-5906

FAX：03-3865-5907

設立：2003年2月27日

資本金：1,800万円

事業内容：レオロジーに関する評価装置の販売・保守、レオロジーに関する分析相談、有料受託試験

URL：<http://www.rheolabo.jp>

### レオ・ラボ（株） 代表取締役社長 藤巻 稔氏へのインタビュー

聞き手：白濱康彦（事務局参事）  
（編集協力：クリエイティブ・レイ株）

## “レオロジー”の専門知識と高性能の海外製品を通して 日本の新素材開発を支える!

— 御社の主な事業内容をお教えてください。

当社の社名にあるレオとは流動と変形の学問であるレオロジーから、ラボはラボラトリーからとったものです。社名が示す通り、主な事業はレオロジーに関する評価装置の販売および保守、レオロジーに関する分析相談、それと各種サンプルの有料依頼測定を行っています。

扱っている装置はイギリス、フランス、オランダ、ドイツ、イタリア、カナダなどからの輸入品で、国内にはない、世界の有名な研究所で使われているものです。例えば、キャピラリーレオメーター、回転型レオメーター、固体粘弾性測定装置、ラボ用小型混練機、ゴム・プラスチックのラボ用試験機、FT-IR（赤外分光計）、FT-NIR（近赤外分光計）などがあります。

分析相談に関しては、当社にはレオロジーの博士号を持った社員も在籍しており、お客さまの専門的な相談に対応しています。



固体粘弾性測定装置 DMA+  
用途：固体用の粘弾性測定装置



赤外/近赤外分光計 FT-IR/NIR  
用途：測定対象の物質に赤外線を照射し、対象物の特性を知る装置

—レオロジーについて、また、扱っているそれぞれの製品について、簡単にご説明いただけますか。

レオロジーとは簡単に言うと、物が圧力や温度などの力を加えられたとき、どうなるのかを研究する学問で、レオロジーに関する評価装置は、主に新素材の開発などに用いられています。

レオメーターとは、圧力や温度などを変えていったときの素材の粘度を測る装置です。粘度には通常粘度と伸長粘度という引っ張ったときの粘度があり、成形加工では粘度データが同じでも、伸長粘度の違いによって加工に違いが出てくることがあります。キャピラリーレオメーターはその伸長粘度を測定するもので、私たちが扱う製品は世界最高の精度と実績を持つ装置です。また、周波数を変えることで、粘度以外のいろいろなファクターを見ることが出来るレオメーターも扱っています。

固体粘弾性測定装置は、名前から分かる通り、溶融体ではなく固体化したものの粘弾性を調べるもの。混練機はかき混ぜる装置で、当社で主に扱っているのは実験室で使用する小型卓上用で、混練機は食品や製剤など用途はさまざまありますが、当社製品のメインはポリマー関係です。

—レオロジーに関する分析相談や有料依頼測定などは、どのように行っているのでしょうか。

有料依頼測定は、回転型レオメーター、キャピラリーレオメーター、ラボ用小型混練機、固体用粘弾性装置によるサンプル測定で、各種サンプル、測定条件などをご相談いただいております。

そしてデータの見方も重要ですので、専門知識を持ったスタッフが、お客さまが何を求めているのかをご相談していただき、サンプルの分析データからアドバイスを行える体制を整えています。

この業界全体を見ても、レオロジストの社員が在籍しているのは当社だけだと思います。

—扱っている製品はヨーロッパ製が多いようですが、数カ国の製品を扱う上で、ご苦労された点などはございますか。また、言葉はどうされているので

しょうか。

ヨーロッパ製品が多いのですが、製品マニュアルは英語ですので、英語は必須です。それから苦労というよりは、扱っている製品が高性能なので、トレーニングは怠れません。データの見方、アプリケーション、装置のメンテナンス、サービスのトレーニングも含めて、当社では海外へ社員を送り、技能の向上を図っています。

—それ以外に社員のスキルアップのために行っていることはございますか。

ときどき勉強会を開催しています。勉強会はレオロジストの話聞くことが多いのですが、これによって社員のレベルアップを図っています。

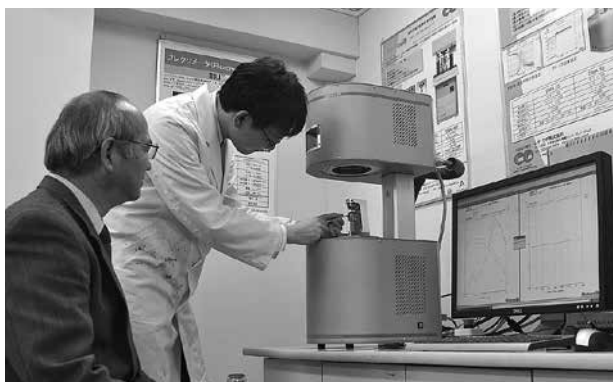
とにかく、製品は国内にはない高い性能を持った輸入装置が主になります。世界的に性能の高い装置を用いて、お客さまには新素材を開発していただく、それが私たちの会社の使命かと思っております。

—設立は2003年2月とのことですが、設立の経緯や当時の様子などを、簡単にお聞かせいただけますか。

この会社を設立する前、私はアメリカのレオメトリックという会社の日本支社代表として、10数年在籍しておりました。その間、民間企業の間人として初めてとなる、日本のレオロジー学会の理事も務めました。レオロジー学会には長年お世話になるとともに、大学の先生方との人脈も作ることができました。なお、レオメトリックとはニューヨークに本社を置くレオロジー関連の装置を扱う会社でした。

ところが、2003年にレオメトリックがウォーターズというアメリカの会社を買収されることになりました。それを機に、一緒に働いていた一部のスタッフとともに、このレオ・ラボ株式会社を設立することになったのです。

幸い、当時、仕事を通して海外とは良好な関係にあり、優秀な海外メーカーの装置を扱うことができ、一方、国内のお客さまからもご愛顧をいただくこと



固体粘弾性測定装置 デモ風景



小型混練機 デモ風景

ができました。設立から現在まで、一度も赤字を出さずに業績を伸ばすことができたのは、こうした皆さまのおかげと感謝しております。

— 会社を設立して約10年とのことですが、これまでに仕事を通して強く印象に残った出来事などがあれば、お聞かせいただけますか。

お客さまが当社の装置を使い、この世になかったような新素材を開発されたと聞くたびに、この仕事を通して世の中の役に立てたのかなと喜びを感じています。社員に対しても、私たちは製品を売っているだけでなく、社会に貢献しているという自負を持って、仕事をするようにとっています。

それと会社として業績を伸ばすことができたのは、会社のスタッフや、海外との良い人脈があったからこそで、人と人との関係の大切さを実感しているところです。

— 会社設立以来、ずっと黒字を続けてきたとのことですが、困難だとお感じになったことはなかったのでしょうか。

やはり、会社設立時は大変だったと思います。ただし私の性格的なものもあり、あまり困難と思うこともなくやってきました。

それと、海外の優れた装置を紹介することが使命であると思っているためか、いつも前向きな気持ちで仕事に取り組むことができるようです。

— 貴社の経営方針や経営理念などをお教えいただけますか。

大切にしていることの1つは、チームワークです。私たちの仕事は1人だけで進められるものではなく、アプリケーション、サービス、営業などのチームワークが求められます。今後ますます拡大していくマーケットに対応していくため、社内での技術ディスカッションをオープンにしてチームワークを高めていきたいと思っています。以前の会社はアメリカの会社であり、まさに仕事は個で行うところがありました。今は日本的な部分を見直し、社内での話し合いを大切にしています。

もう1つは、良い意味での国際感覚を磨いていくことです。海外の製品を扱っているわけですから、その製品を生み出した国の発想を含め、感覚を掴むようにしています。

— 今後の事業目標としていることは、どのようなことでしょうか。

現在はレオロジー装置を主に扱っていますが、今後は分析装置なども扱い、どんな研究目的にも対応できる会社になりたいと思っています。

実はレオメトリックに入社する前、私は普通の分析装置を扱う会社におりました。つまり、化学的な見方をする装置と物性的な見方をするレオロジーの両方を見てきたわけです。

本来、新しい素材を作ろうと思えば、化学的な見方と物性的な見方の両方があったほうが良いのです

が、両者は意外につながりがないのです。大学の先生方も同様で、両者を結びつけている方はいないように思います。さらに、レオロジーという学問はどの分野に属するのかわかりしないところがあり、ある大学では化学に属していたり、他の大学では物理であったり、機械であったりします。

こうした状況ですが、将来的に私たちが物性と化学の両面から装置を提供すれば、そこからまた新しいものが生まれてくるものと考えています。

— 現在、貴社は海外製品を日本でのみ販売していますが、アジアの他の国でも販売するなどのお考えはございますか。

レオメトリックの時代は、他のアジアの国にも製品を出していましたが、今は日本だけをマーケットとしています。何と言っても、日本は基礎研究のレベルが高いので、新素材の分野も強いのです。

— 座右の銘、愛読書、好きな歴史上の人物などがあれば、教えていただけますか。

発明王エジソンに「天才とは1%のひらめきと99%の努力である」という名言がありますが、どうもこれは日本人好みに訳されたものらしく、エジソンが本当に言いたかったのは「1%のひらめきがあれば、99%の無駄な努力をしなくてもよい」ということだったそうです。

私は後者の意味と取り、大切な言葉としています。仕事をする上で努力は必要ですが、無駄な努力は会

社にとっては損失です。「努力して取り組んでいますが、結果は出ません」では駄目なのです。この動きの速い時代に無駄な努力をしては取り残されてしまいます。目的地に着くために、ぐるぐる回り道をし、時間とお金を使ってようやく到着しました、というのでは、仕方ないのです。

社内では、ひらめきが大切だとよく言っています。ひらめくためには、もちろん勉強し知識を増やすことが必要で、その上で常にアンテナを張ることです。そうすると、本当の天才がポンとひらめくようにはいかないでしょうが、目的地に到着する近道が必ずひらめくはずです。

### 学生時代から始めたテニスで 週末は汗を流す



趣味というと、学生時代から続けているテニスがあり、週末のほとんどは仲間とテニスをして過ごしています。太陽の下で思い切り汗を流すと、日頃のストレスから解放されるのを感じます。また、テニスは勝つために脳を働かせますが、本を読んだりしているのとは違った頭の使い方をしており、脳の活性化にも良いのではないかと考えています。加えて、テニスによって仕事仲間以外との交流もでき、会社生活とは違ったさまざまなことを学ぶ機会になっています。



ラボ実験風景



IR解析中の弊社ドクター